

審査の結果の要旨

氏名：高橋しづこ

本研究は、不妊女性の凍結胚処理方法の選択における意思決定プロセスを明らかにすることを目的とし、自らの凍結胚に関して「継続保存」、「廃棄」、「研究提供選択」のいずれかの意思決定をした不妊女性 31 名（継続保存：10 名、廃棄：5 名、研究提供 16 名）に対する面接を通じて、グラウンディッド・セオリー・アプローチを用いて、データの収集・分析を行った。本研究の結果、判明した事項、及び、本研究の独自性は、以下のとおりである。

本研究により、不妊女性が自己の凍結胚処理方法の選択に係る意思決定に際して以下の 5 つのステップを踏むことがわかった。

- ① 凍結胚保存機関からの更新通知を受け取る以前においては、胚をいわば『モラトリアム的に保存』している（ステップ 1）。
- ② 凍結保存機関から通知が来ることにより、初めてその後の処理方法についての意思決定プロセスが開始し、『胚の勿体なさ』と『次子希望』につき検討し、逡巡する（ステップ 2）。
- ③ 保存『コストの妥当性』について検討する（ステップ 3）。
- ④ 『パートナーの意見』を確認し、継続保存するかどうかを決定する（ステップ 4）。
- ⑤ 継続保存しないことを選択した不妊女性は、さらに、『研究提供の心理的・倫理的影響』を検討し、「廃棄」、あるいは「研究提供」を選択する（ステップ 5）。

不妊女性は、これらのステップのうち、特に、ステップ 2, 4, 5 において心理的葛藤を有することが明らかになった。すなわち、不妊女性にとっては、胚が妊娠を可能にする唯一の手段であるために、胚の処理方法を考えることは、『不妊を受け入れられるか』否かの意思決定と密接に関わるものであり、その意思決定には著しい葛藤を伴う。また、「継続保存する」ことを決定した者の多くは、『不妊を受け入れられない』か又は「不妊であることの受け入れを延期する』ことを理由としてそのような決定をしているのに対して、「継続保存しない」ことを決定した者の多くは『不妊であること』を受け入れ、認容する何らかの別の動機付けを見出していることがわかった。具体的には、これらの動機付けには、「昇華」、「水に流す」、「供養」といった日本の仏教文化の影響を強く受けた心理状態があり、これらが不妊女性にとって不妊を受け入れることの心理的抵抗や困難さを緩和し慰めを与えていることがわかった。

本研究結果の独自性としては、主に、以下の 3 点が挙げられる。

- ① 「継続保存しない」ことを選択のみならず「継続保存する」ことを選択にも葛藤を伴うことが初めて明らかになった。先行研究の多くが「継続保存しない」場合の意思決

定に注目して「継続保存する」場合の意思決定に必ずしも焦点を当てて来なかったのに対し、本研究は、「継続保存しない」場合（すなわち、「廃棄」又は「研究提供」を選択する場合）のみならず、「継続保存する」場合の意思決定プロセスにも着目して、初めてその意思決定モデルを明らかにした。これにより、本研究は、我が国と同様、「継続保存」、「廃棄」、「研究提供」という 3 つの選択肢が認められる諸外国のみならず、これらに加えて「他者提供」という 4 つの選択肢が認められる国々においても、諸々の理由により事実上「他者提供」を行うことが困難で 3 つの選択肢しか選択できないような場合には、有用なモデルとなり得るものと考えられる。

- ② 先行研究においては、「胚の倫理的地位」が葛藤の中心的要因とされているのに対し、本研究においては、日本の不妊女性にとって、いわば『胚の勿体なさ』が葛藤の中心であることが明らかになった。胚の倫理的地位も胚が「勿体ない」の理由の一つにはなっていたが、日本人特有の「勿体ない」という道德観が選択の基準となることが明らかにされた。
- ③ 「胚」を保存することが「不妊を受け入れない」ための手段である以上、凍結胚処理方法の選択は『不妊を受け入れられるか』否かの問題と密接に関連するため、不妊というアイデンティティーを持つ女性にとって、その決断は深刻な意味を有することがわかった。また、『不妊を受け入れる』ための日本人特有の文化的・宗教的背景を有する動機付けがあることもわかった。さらに、②及び③を考慮すると、凍結胚処理方法の選択に悩む不妊女性に対しては、日本人特有の文化的・宗教的背景を踏まえたきめ細かなカウンセリングや心理的サポート、インフォームドコンセントを行うことが極めて効果的であると考えられる。

以上に述べたとおり、本研究は、凍結胚保存に際しての 5 つの意思決定プロセスを明らかにするのみならず、上記の 3 点で先行研究にはない独自性、独創性が認められるものであり、高い学術的価値が認められるものとする。さらに、本研究は、長期受精胚保存者に対するカウンセリングのあり方、研究提供におけるインフォームドコンセントのあり方、凍結胚を持つカップルへの情報提供のあり方などを検討する上で、臨床的有用性をも兼ね備えているものであり、学位の授与に値するものと考えられる。